

御嶽山の噴火災害を踏まえた活火山の観測体制の強化に関する報告(概要)

評価体制の強化

1. 気象庁の監視・評価体制の改善と強化

- (1) 火山活動や社会的条件を考慮した観測網の充実・維持
- (2) これまでに発生した事象の経験や学術研究の成果を最大限活用した火山活動の評価体制の強化
- (3) 現地観測、地元との情報共有、大学との意見交換の実施体制の強化

2. 観測データの品質向上のための技術開発の推進と新たな観測技術の導入

- (1) 気象庁及び大学・研究機関等による新たな監視・観測技術の開発
- (2) リモートセンシング等最新技術の利活用の推進

3. 調査研究の着実な推進

- (1) 大学・研究機関等の連携による研究の推進
- (2) 行政機関と大学・研究機関等の協力による学術的研究の戦略的な推進

4. 人材育成を含めた調査研究体制の強化に対する貢献

- (1) 大学・研究機関等による優秀な人材育成への努力。気象庁等火山防災に関わる行政機関による、これら火山学の知識を有する人材の効果的な活用の積極的な実施、キャリアパスの確立
- (2) 気象庁による大学等の観測点の保守・維持等への協力

観測体制の強化

御嶽山の噴火災害を踏まえた活火山の観測体制の強化に関する緊急提言

- 1. 水蒸気噴火の兆候をより早期に把握するための観測体制の強化
 - (1) 火口付近への観測施設の増強
 - (2) 水蒸気噴火の兆候をより早期に把握できる手法の開発
- 2. 御嶽山の火山活動の推移を把握するための観測強化
- 3. 常時監視が必要な火山の見直し(八甲田山、十和田、弥陀ヶ原の追加)